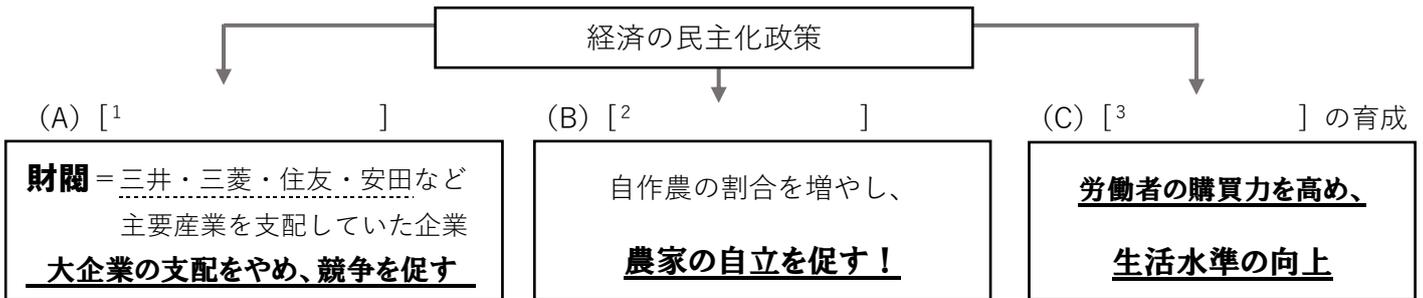


戦後日本経済の動き



(I) 戦後復興と経済の民主化【1945~1955】

* 第二次世界大戦敗北 ⇒ (300万人あまりの命、国富の4分の1を失う)



1946[4]]: 経済建直しのために、限られた資源を
石炭・鉄鋼などの基幹産業に重点的に配分。



これに必要な資金を大量の債券(借金)で賄う! → その結果、紙幣が大量に発行され、激しいインフレを招く

↓ **インフレ収束のために**

1948 GHQ による発表 = [5]] 具体化

1949 [6]]: アメリカの銀行家ドッジが経済顧問として来日し、日本経済建直しの
ために指摘を行なった。増税&財政削減を徹底する **超均衡予算** を推進。

予定通りインフレは収束したが、
厳しい引き締めにより深刻なデフレ不況

1950 [7]] 勃発 ⇒ 米軍からの武器・日用品注文が殺到 = [8]]

⇒ 不況からの脱出!!! ⇒ 1955 **戦前の生産水準を上回るまでに回復** ⇒ 急成長の時代へ

(II) 高度経済成長【1955~1973】

■ **高度経済成長期 (1955~1973頃)**: 年平均 **約10%**の実質経済成長率を記録 ★この期間で GNP は約6倍に

① **神武景気 (1954~57)**: 輸入中心の民間設備投資によって支えられた好景気

- ・「もはや戦後ではない」(1956)
- ・耐久消費財ブーム: 「三種の神器」(冷蔵庫・洗濯機・白黒テレビ)



② **岩戸景気 (1958~61)**

- ・ **池田勇人**内閣 「[9]]」



③ **オリンピック景気 (1962~64)**

- ・ 公共事業 (東海道新幹線、首都高速など) の急増により起こった好景気
- ・ [10]] (経済協力開発機構) に加盟 (1964)



④ **いざなぎ景気 (1965~70)**: 輸出中心の好景気

- ・ GNP が資本主義世界で第2位に
- ・ 3Cの普及 (car・cooler・color TV)

※高度経済成長を支えた要因

- ① 活発な設備投資+技術革新=重工業が発達
- ② 設備投資を支える、国民の高い貯蓄率
- ③ 1ドル360円の固定レート: 円安で輸出有利

(Ⅲ) 高度経済成長から安定成長へ【1973～1985】

* 高度成長期が遂に終焉を迎える・・・なぜ経済成長が止まってしまったのだろうか。

★1973 [11] : 第4次中東戦争の影響で[12] (石油輸出国機構)が原油価格を4倍に
→ 燃料の輸入低下・生産停滞 → 消費者の買い占め騒動 → 石油関連の商品を中心に消費者物価の急上昇
この石油危機と同時に、輸出不調による不況が発生する。不況+インフレーションが同時発生

1974年に戦後初めての前年比[14]]を記録し、高度経済成長は終焉。
その後は、平均約4%の緩やかな成長が続く[15]]となる。

13

二度にわたる石油危機を、技術革新や産業構造の転換*1により乗り越えた日本は、安定成長期に入る。

※1 資源多消費型産業→知識集約型産業へ移行

(Ⅳ) 円高不況とバブル景気【1985～1991】

一段と競争力をつけた自動車産業や機械産業は次第に輸出を伸ばし、貿易黒字が急速に膨らんだ。→貿易摩擦問題

1985 [16] : G5 (日米仏英独) の間で円高・ドル安への誘導を実施
→アメリカの輸出有利な形にして、日本の輸出を抑制

日本 外国に頼る経済ではなく、国内で主導していく経済(内需主導型)での成長を! (1986 前川レポート)

大幅な金融緩和 = お金の回りを活発に!

投資が投資を呼び、空前の好景気に! = [17]]

低金利の下で調達された資金が、株式や土地への投資にも向けられ、
価格が高騰した。「景気がよくなりそう…」という憶測や妄想が膨らみ
中身の無い好景気となったことから、バブル(泡)と呼ばれるように。
過剰に膨らんだ好景気は、抑制した瞬間に一気にはじけた。



(Ⅴ) バブル後の日本経済【1990年代～現在】

■平成不況：1991～93年ごろ

銀行は大量の不良債権を抱え込み、大型倒産が相次ぐ

バブル崩壊後、経済の建て直しは難しく、日本経済は低迷を続けた。

国の財政が悪化し、不況とデフレの悪循環 (= [18])

バブル崩壊(1991)から2000年頃の低迷期は、[19]

デフレ傾向：90年代末頃からデフレ

マイナス成長：1998～2001でマイナス成長

失業率の上昇：完全失業率が5%を越える年も

]と呼ばれている。

■小さな政府への改革：2000年代 小泉純一郎首相

●[18] : 小さな政府への改革。キーワードは自由化・規制緩和・民営化

●[19] : 郵便に関する三事業の民営化 (2007)

「改革なくして成長なし」



《雇用制度の変革》

バブル前 終身雇用制/年功序列型賃金 → バブル後 非正規社員の雇用/実力主義の給料 格差社会の到来

■近年で日本経済に影響を与えた主な出来事

2008 リーマンショック：アメリカの金融危機を発端に、世界中を巻き込んだ経済危機

2011.3.11 東日本大震災：金融危機の余波が残る中、追い打ちをかけるような大災害に。

2012～ 第二次安倍晋三内閣による経済政策 = [20]]

2020 新型コロナウイルス感染症の世界的大流行(パンデミック)



▲ロックダウンした東京・渋谷

戦後日本経済の動き

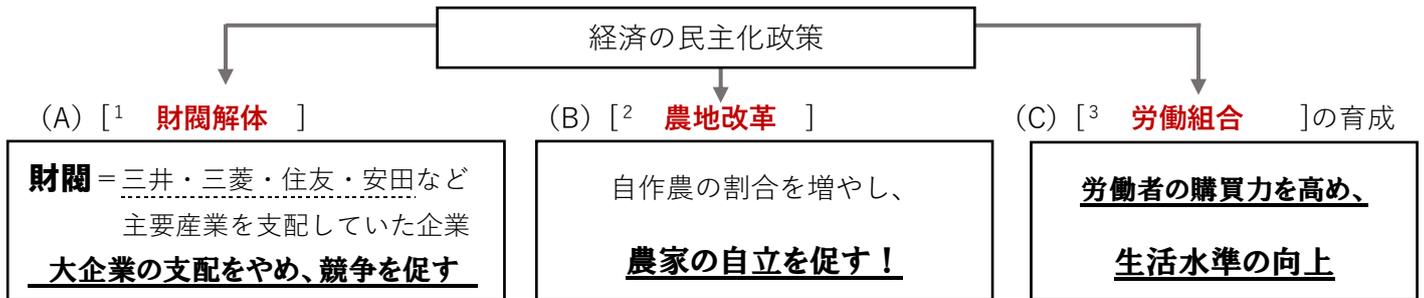


Think...考えるコーナー(5分~10分) / Work...作業するコーナー(10分~20分)

1年[]組[]番 名前[]

(I) 戦後復興と経済の民主化【1945~1955】

* 第二次世界大戦敗北 ⇒ (300万人あまりの命、国富の4分の1を失う)



1946[4] **傾斜生産方式**]: 経済建直しのために、限られた資源を
石炭・鉄鋼などの基幹産業に重点的に配分。



これに必要な資金を大量の債券(借金)で賄う! → その結果、紙幣が大量に発行され、激しいインフレを招く

↓ **インフレ収束のために**

1948 GHQ による発表 = [5] **経済安定9原則**] 具体化

1949 [6] **ドッジ・ライン**]: アメリカの銀行家ドッジが経済顧問として来日し、日本経済建直しの
ために指摘を行なった。増税&財政削減を徹底する 超均衡予算 を推進。

予定通りインフレは収束したが、
厳しい引き締めにより深刻なデフレ不況

1950 [7] **朝鮮戦争** 勃発 ⇒ 米軍からの武器・日用品注文が殺到 = [8] **特需**]

⇒ 不況からの脱出!!! ⇒ 1955 戦前の生産水準を上回るまでに回復 ⇒ 急成長の時代へ

(II) 高度経済成長【1955~1973】

■ **高度経済成長期 (1955~1973頃)**: 年平均 **約10%**の実質経済成長率を記録 ★この期間で GNP は約6倍に

② **神武景気** (1954~57): 輸入中心の民間設備投資によって支えられた好景気

- ・「もはや戦後ではない」(1956)
- ・耐久消費財ブーム: 「三種の神器」(冷蔵庫・洗濯機・白黒テレビ)



② **岩戸景気** (1958~61)

- ・池田勇人内閣 「[9] **国民所得倍增計画**]」

④ **オリンピック景気** (1962~64)

- ・公共事業 (東海道新幹線、首都高速など) の急増により起こった好景気
- ・[10] **OECD**] (経済協力開発機構) に加盟 (1964)



④ **いざなぎ景気** (1965~70): 輸出中心の好景気

- ・GNP が資本主義世界で第2位に
- ・3Cの普及 (car・cooler・color TV)

※高度経済成長を支えた要因

- ① 活発な設備投資+技術革新=重工業が発達
- ② 設備投資を支える、国民の高い貯蓄率
- ③ 1ドル360円の固定レート: 円安で輸出有利

(Ⅲ) 高度経済成長から安定成長へ【1973～1985】

* 高度成長期が遂に終焉を迎える・・・なぜ経済成長が止まってしまったのだろうか。

★1973 [11 **第一次石油危機**] : 第4次中東戦争の影響で[12 **OPEC**] (石油輸出国機構)が原油価格を4倍に
→ 燃料の輸入低下・生産停滞 → 消費者の買い占め騒動 → 石油関連の商品を中心に**消費者物価の急上昇**
この石油危機と同時に、**輸出不調による不況**が発生する。 **不況+インフレーションが同時発生**

1974年に戦後初めての前年比[14 **マイナス成長**]を記録し、高度経済成長は終焉。 **13 スタグフレーション**
その後は、平均約4%の緩やかな成長が続く[15 **安定成長期**]となる。

二度にわたる石油危機を、**技術革新**や**産業構造の転換***1により乗り越えた日本は、安定成長期に入る。

※1 資源多消費型産業→知識集約型産業へ移行

(Ⅳ) 円高不況とバブル景気【1985～1991】

一段と競争力をつけた自動車産業や機械産業は次第に輸出を伸ばし、貿易黒字が急速に膨らんだ。→貿易摩擦問題

1985 [16 **プラザ合意**] : G5 (日米仏英独) の間で**円高・ドル安への誘導**を実施
→アメリカの輸出有利な形にして、日本の輸出を抑制

日本 外国に頼る経済ではなく、国内で主導していく**経済(内需主導型)**での成長を! (1986 前川レポート)

大幅な金融緩和 = お金の回りを活発に!

投資が投資を呼び、空前の好景気に! = [17 **バブル景気**]

低金利の下で調達された資金が、**株式**や**土地**への投資にも向けられ、
価格が高騰した。「景気がよくなりそう…」という憶測や妄想が膨らみ
中身の無い好景気となったことから、バブル(泡)と呼ばれるように。
過剰に膨らんだ好景気は、抑制した瞬間に一気にはじけた。



(Ⅴ) バブル後の日本経済【1990年代～現在】

■平成不況：1991～93年ごろ

銀行は大量の不良債権を抱え込み、大型倒産が相次ぐ

バブル崩壊後、経済の建て直しは難しく、日本経済は低迷を続けた。

国の財政が悪化し、不況とデフレの悪循環 (= [18 **デフレスパイラル**]) を
バブル崩壊(1991)から2000年頃の低迷期は、[19 **失われた10年**]と呼ばれている。

■小さな政府への改革：2000年代 小泉純一郎首相

- [18 **構造改革**] : 小さな政府への改革。キーワードは自由化・規制緩和・民営化
- [19 **郵政民営化**] : 郵便に関する三事業の民営化 (2007)

「改革なくして成長なし」



《雇用制度の変革》

バブル前 終身雇用制/年功序列型賃金 → **バブル後** 非正規社員の雇用/実力主義の給料 **格差社会の到来**

■近年で日本経済に影響を与えた主な出来事

2008 **リーマンショック** : アメリカの金融危機を発端に、世界中を巻き込んだ経済危機

2011.3.11 **東日本大震災** : 金融危機の余波が残る中、追い打ちをかけるような大災害に。

2012～ 第二次**安倍晋三**内閣による経済政策 = [20 **アベノミクス**]

2020 **新型コロナウイルス感染症**の世界的大流行(パンデミック)



▲ロックダウンした東京・渋谷